第5回太郎川公園再生検討委員会　議事録

日時　　：令和4年1月24日（月）18時～

場所　　：ゆすはら・夢・未来館　大ホール

出席委員：12名（空岡則明、上田末喜、長山和幸、森山真二、上田知子、山口眞知子、石川清利、田村俊夫、明神哲男、和田紗代、那須絵梨、アウテンボーガルト陽平）

事務局他：大川真一郎、山本和正、田尾由紀、笛木保志、立道斉、来米修作、小池幸仁

・開会

・審議

【空岡委員長】

皆さんこんばんは。大変お忙しい中を委員全員の皆さまのご出席いただきまして誠にありがとうございます。時間がございませんので早速始めたいと思いますけども、今日は小池さんがですね、リモートでの参加ということとなっております。小池さん何かご意見等ございましたらですね、遠慮なく声をかけていただきまして、ご発言いただきますようによろしくお願いをしたいと思います。それでは今日の議題の方ですけども、ホテル、レストランの施設規模についてということで、案内を出させていただいております。前回、今まで説明を受けた中で皆さんにゆっくり見ていただいて、疑問点なり聞きたいこと等をですね、持ってきていただきたいという話をしておりましたが、ホテルそのものについてのですね、今日は話を進めていきたいなという風に考えております。それであの議事に入る前にですね、ひとつＫさんの方から一点少しお話ししたいことがあるということでございますので少し時間をいただきたいと思いますし、そのあとですね、観光協会の方からですね、雲の上のホテルの収支検討資料の少しわかりやすくしたというか、見やすくしたという資料を作ったということですのでこれも少し時間をいただいてですね、説明をしていただきそのあとで議題の方に入りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いをします。

【K 委員】

＜1，134字削除。個人的見解に基づく情報提供。＞

【空岡委員長】

今、あのＫさんの方からちょっとご意見ありましたけども、まあ、あの本委員会においてですね、その中においては、これはまた違う次元の話であろうと思いますので、それはそれなりにお聴きをしていただきたいなと言う風に思っております。それでは事務局長の方からこの資料の説明をお願いしたいと思います。

【来米事務局長】

はい。すみません、前回説明した時にちょっと温泉とかプールが入っててわかりにくいところもありましたのでそれをちょっとなくしたものと、一回その減らすばかりの検討じゃないづつという意見もあって、あの課長会で。増やしたものも入れて検討してみました。まず表紙をめくって1ページで

すけど、これがまず観光協会の組織図となっております。一番上の理事長、現在は町長です。そして理事と参事の下に現在新しくしている専務理事、実際にここがゼネラルマネージャーの役割を果たします。そして左から観光事業部、ホテル事業部、温泉事業部、道の駅事業部の４事業部となっております。組織のイメージとしてはこういう風になっております。次の2ページをお願いします。人件費の保険料等は見直して前回と数字が少し変わったところもありますけど、大体同じ計算で温泉・プールを除いたものとなっておりまして、真ん中の、前、説明した35パーセントの稼働で真ん中の下の表で差し引きが4，988千円の黒字という風になっております。そして、前回、ちょっと細かい説明をしていなかった給料の部分なんですけど、人件費の。13ページをすみませんがご覧いただけますでしょうか。この左側がですね、13ページの、観光協会の現在の給料表となっておりまして、左の号級1、ここがまあ基本高卒での初任給で15万円となっておりまして、毎年成績がよくって昇級して10年経って黄色いところまでいったら右側の2級に渡っていく、という風な給料表となっております。右の上っていうのは退職金の掛け金で、中退共いわゆる中小企業退職金共済事業という風なもので入っておりますので、その掛け金が給料によってこういう風に変わっていく。それで右の下が高卒で入って65才まで普通に勤めたときに、そしたらなんぼ退職金がもらえるがやという表ですけど7，662千円。まあ運用益があるので多分これよりは増えると思うんですけど、正直、役場なんかですと38年くらい、38年、40年勤めたら2千万円とかいうことになるので、まあ3分の1程度の金額みたいなイメージとなると思います。そしてその14ページですけど、次の。これがその給料表に保険とか手当を加味したもので、右から1、2、3、4番目のその他の手当、ここがなかなか推計できないんですけど、24万円という風にしております。そして、それ右の時間外も15万として想定して、その総額での給料の計算を前回示したもので想定をしてやっているという風になっております。基本、梼原高校の子どもが本当に夢を持って入社してくれる水準にはしておきたいですけど、この給与水準がどうなのかということを今後募集までに検討する必要はあると考えております。ちなみに今の[団体名]なんかもそうですけど、ボーナスなんかも3ヶ月出せるということで、儲けなかったら出さない、昇級もしないというような決まりになっております。この給料は、慎重に考えて、それぞれの部門で給料表を変えるとかも検討せにゃいかんのかもしれません。すいません、2ページにまた戻っていただきまして、給料はそのような計算で一応細かく計算されたものを積み上げています。そして2ページの一番下の表ですが、前回ホテルの宿泊単価を12，000円だったんですけど、それを1，000円ずつちょっと上げて16，000円まで想定として上げたらどうなるかということを試算しております。まあ13，000円だったら35パーセント稼働で15，719千円の黒字、15，000円の単価だったら30パーセントでも黒字といった感じの表になります。この辺をどこら辺の金額で想定するかで数字は大きく変わってきますが、ひとまず最低のラインを示しているというような試算表となっております。そして次の3ページですが、これが部門別に経費を出して見直したものです。その他経費や観光事業部門はホテルでの計上という風にしておりますが、一番下の表で35パーセント稼働とした場合、宿泊12，000円でホテル部門が4，702千円の黒字、レストラン部門が3，557千円の黒字、マルシェ部門が3，271千円の赤字となっております。これは人件費の見直しが大きくなっております。全体としては、4，988千円の黒字見込み、

みたいな数字となっております。そして前の表と同じですが、宿泊金額と稼働率をそれぞれ試算して35、40、12，000円、13，000円みたいな、ちょっと表にしてみております。次に4ページですが、これ前回と同じく、5階の部屋を12室削って4階建てにしたときにどうなるかという試算です。稼働率35パーセントとしたときは、赤字のマイナス22，210千円となり、実際採算ラインは12，000円やったら42パーセント、15，000円にしたら35パーセント稼働で785千円の黒字といったような感じになります。次に5ページですが、これ部屋減らしたときの部門別の経費、まとめの右の方で宿泊費14，000円までは、まあ赤字となりまして、35パーセントだと宿泊15，000円で宿泊部門の黒字でその他の赤字を補っていくみたいな感じになります。そしてその6ページなんですけど、減らすばっかりじゃいかんじゃろということで6階建てで12部屋24人の定員を増やして、54部屋108人としたときにどうなるがやっちゅう話です。稼働率が35パーセントで36，488千円の黒字となります。これは当然集客の営業努力次第ということにはなりますけど、正直、格段に収益は上がります。人件費としても30室と50室ではフロントなんかの職員はほぼ変わらずに、掃除のパートとかが増えるだけということですので、そこら辺が非常に効いてきているのかなという風に思います。観光協会事務局としては、最大の効果を出すためには、実際この部屋数が欲しいなというのが実際の気持ちではあります。部屋数というのが結構こういう風な計算をすると経営に大きく寄与しているなあと感じております。そして16ページをご覧ください。飛びますけど。それが梼原への経済効果の試算なんですけど、先ほど言った30室、42室、54室ということでの比較をしてます。先ほどの計算で35パーセント稼働とすれば年間の収支が30室でマイナス22，210千円、42室4，988千円、54室36，488千円でその差が27，198千円と31，500千円。30室と54室の差は、58，698千円という風になります。そして経済効果の95パーセント程度が町に、町内にぐるぐる回るお金として計算しますと、30室で254，955千円、収支ですね。儲けがマイナス22，210千円。10年で25億5千万、収支としてはマイナスの2．2億。20年で51．0億、当然倍になります。マイナス4．4億。42室で281，895千円で収支はプラスの4，988千円。10年で28．2億、収支としては0．5億。20年で56．4億、プラスの1億。収支は。54室で304，748千円、収支としては36，488千円。10年で30．5億、収支としては3．6億。20年で61．0億、収支としては7．2億ということになります。次に、同じように稼働率を全国平均の48．9、当然、経営としてはこれ以上を目指すわけですからこのくらいになるとどうなるかということを同じように計算したものがここになっておりまして、48．9ですと下の右端のところで20年で52億、30室で。42室だと58，4億、54室だと20年で63億で収支が24億という風な単純な計算ですけど、まあこういうような数字にはなっていくということになります。次に17ページなんですが、収入の考え方としてここの雲の上の観光協会は会社にお金を残すということが目的ではございません。普通の会社なら儲けたお金で社長がええ車を乗りゆうにゃあみたいなことがあるのかもしれませんけど、そういったことは全く関係なく、儲けたものは何らかの形で梼原町に還元するということとしております。そしてそのお金を福祉や道路整備といったものに充填していくということになります。この財源としての収入というのが非常に大切になってくると思っておりまして、例えば今回も起債として過疎債という借り入れであれば、借りた70パーセントが交付税措置として戻ってきます。つまり、過疎債を借りて

３．３億円の事業を実施すれば、70パーセントの２．３億円は戻ってきますので、実質１億円の財源があれば３．３億円の事業ができるみたいなことになります。もちろん決まりがあって使えるものの、このホテルの赤字補填とかそういうものには使えません。これを長く続けて財源を確保するということが、これからの梼原町の経済とか財政的にも非常に重要になってきて、先ほどの48．9パーセントを20年一生懸命がんばってこの数字のとおりになったら、81億円のこの財源で事業ができるということになります。そして現在の計画なんですけど、今、太郎川全体として41億円ぐらいかかるという風になっておりまして、その財源は、一般財源は15億程度使う計画となっております。もう、あとは有利な過疎債とか補助金とかいうようなものとなっていきます。そういう、じゃあ守るべき福祉やインフラ、そのために攻めて稼ぐ太郎川、こういう事業があるべきであると考えて、観光協会としてしっかりがんばっていきたいという風に覚悟を持って考えております。次に18ページですが、その部屋を増減する建築費用なんですけど、前回説明したとおり、減らしたときは263，000千円程度減るじゃろうということで、今回もし増額した場合どうなるよと隈事務所にちょっと検討していただきましたら、屋外消火栓とか面積の関係でかなり増えてくるじゃろうということで、それが16，700千円ほど追加が必要で12部屋増やしたときは279，000千円の増加になるじゃろうと。まあ売り上げの差で言うと正直35パーセントの稼働で売り上げ55，000千円ですので、48．9パーセントで77，000千円。正直、5～6年でこの差は埋まるということになるんなら部屋を減らして小さい規模で小さい経済を回す、みたいなやり方もあるでしょうけど、なかなかそれは正直、本末転倒になるんじゃないかなと思って、再生計画の意味がどうなんだろうという風に観光協会としては考えたりしてます。そういう意味で梼原への経済効果を考えると、この42室というものは決して多すぎない。むしろ少ないという規模であるのではないかと観光協会事務局としては考えております。走り走りですが以上で説明を終わります。

【空岡委員長】

ただいま事務局長より、ちょっと内容が若干変わったといいますか、収支に対する検討資料として説明をしていただきました。まあ、この検討資料の中で今までの規模縮小というよりも大きくした場合とかいうような感じの数字も計算をされているようではありますけども、まあこれも一つの皆さんの検討というか検討の資料の一つとして参考にしていただけたらと思いますのでよろしくお願いをしたいと思います。それではここから議事の方に入っていきたいと思いますけれども、皆さん方の方でなにかこの点についてはお聞きしたいとか、こういう風に考えるとかいうような、そういうことはございませんかね。

【H 委員】

はい。

【空岡委員長】

どうぞ。

【H 委員】

すみません。今の収支計画について17ページの現計画の収支計画というところで初めて太郎川公園全体で41億円の事業、ほどの事業ということを今、数字がはっきりと私はわかったわけで

ありますが、15億円の一般財源ということも現在はっきりとわかったところです。予算財源について現時点でのホテルの建設費の税別と税込はいくらでしょうか。

【空岡委員長】

現時点でのホテルに対する建設費の税抜き、税込みの金額、これはいくらでしょうかというご質問ですけど、これは最初出とった28億という数字が、出ておったんですけどもそこは変更はないですよね。現段階の42室ですかね。

【来米事務局長】

26億に消費税。28億か、ホテルだけですね。

【H 委員】

はい。あとその、予算財源に関していくつかありまして、税金を使われるということでそのうち国費、県費、過疎債はおいくらでしょうか。現時点で構わないですけれども。

【大川課長】

すみません。ちょっと資料を持ってきてないので下に取りに行っていいですかね。すみません。下の事務所にあるので。

【H 委員】

はい。あの、次回でもかまいません。

【大川課長】

ちょっと取ってきます。

【H 委員】

はい。

【空岡委員長】

それではちょっと資料持ってくるまでにですね、ちょっと私の方から。

【H 委員】

はい。

【空岡委員長】

構いませんかね。あの、ちょっとお聞きししたいんですけど、今、本当にこうコロナ禍といいますか、世の中の資材の高騰とかですね、いろんなことで建築関係が特にですね、大変な状況になっているという話を私もよく聞くんですけども、このホテルの現段階での建設費28億という、今、出ちゅう数字がですよね、今の段階においても現状のままでいけるのかどうか。それとも今現在同じものを試算したらですよね、いくらか工事金額が上がる形が起きるんじゃないかなということを考えるんですけど、その辺りのことは把握しちゅうかどうかわからないですけど、どうですか。その辺、実際のところ。

【来米事務局長】

実際には今、建設物価、建物の評価あるんですけど、2年前からいうと鉄に関しては2倍くらい木材に関しては1．8倍という風なことで非常に上がってきております。ほんで今、隈事務所に積算をしていただいておりますけど、その数値でいったら普通に考えたらそのぐらいのものが出てく

る可能性はあると思います。そこを金額で抑えていくのか、経済効果として財源が本当にあるのかどうかというのを町長が判断してということにはなるとは思いますけど。上がっているのは空岡さんが言うとおり、会長が言うとおりそのとおりだと思います。

【空岡委員長】

まあ実際、その今、自分たちが検討する、この、こうなったという風に考えたときにですよね。やはりその太郎川を、こうホテルを作るうえでの、その金額があまりにも費用がかかり過ぎるんじゃないかという町民の心配とかいうようなことも一つの要素として、まあこういう検討委員会を立ち上げているというような状態になっておりますんで、そのあたり非常に重要なポイントじゃないかなという風に思ってですね。たしかに大きなホテルをつくって、お客様を呼んで、お客さんが実際来てくれて計画どおりのことがいけるんであればそれはもう何も問題もない。それはもう大いにやるべしということになるんでしょうけども、やっぱりそういうホテル経営がっていうのはですね、やはりなかなかお客さんを集客するのもやっぱり限界もあるでしょうし、競争も厳しい世界じゃあるんじゃないかなという風に思っています。そういう中で本当にこう、計画どおりの集客ができるかどうか、そしてお客さんが来たときに、実際それをもてなすだけのスタッフであるとかそういう対応が本当にとっていけるのかというところがひとつ不安の一つではあるんじゃないかなというようなところは考えております。課長帰ってきましたので。

【大川課長】

すみません。ホテル、レストランの財源の内訳でよろしかったですよね。28億に対する。

【H 委員】

28億に対することもそうですし、41億の金額に関しても教えていただければと思います。

【大川課長】

わかりました。まずあのホテル、レストランの建設費の28億に対する財源の内訳ですが、国費を5億円、県費を6億5千万、地方債を5億円、一般財源を12億円という風に今の段階では試算をしております。太郎川全体の41億に対する財源の内訳ですが、国費につきましては5億円、県費につきましては7億3千2百万、地方債、過疎債になりますが、これも想定ですが、13億2千8百万で一般財源15億9千万弱となっております。これは全然数字は変わってきますので、これが確定ではなく現段階での数字となっております。

【H 委員】

ありがとうございます。

【大川課長】

以上です。

【K 委員】

いいですか。

【空岡委員長】

はいどうぞ。

【K 委員】

この17ページの現計画の支出計画の中に太郎川公園全体で41億円の事業に対する15億円の一般財源を支出というところの15億円という支出の元はどこになるんでしょうか。どういう内容になるんでしょうか。

【大川課長】

ホテル、レストラン、いわゆる既存の施設、キャンプ場であったり、ふるさと市場の整備とか、あとその他の修繕として太郎川公園内のアクティビティ、遊具になりますけど、あときつつき学習館の改修、今、雲の上の温泉の売店の改修とかですね、あと設計委託。

【K 委員】

ごめんなさい。15億円のいわゆる一般財源としての15億円の出どころ。

【大川課長】

出どころは基金です。基金を取り崩して。

【K 委員】

基金を取り崩して15億円投資して、41億円の事業をしようと。

【大川課長】

そうです。

【K 委員】

その中では要するに過疎債というものもあって、それについては基本的に借金ではあるけれども、ここに書かれているとおり7割が交付税措置として、国からお金が返ってくるという話。

【大川課長】

そうです。あくまでも今、5億円で過疎債を設定してますが、これあの配分によっても変わってきますし、町の中でも調整、課の事業の調整がありますので、この金額も変わってきますので、今、5億円で設定させてもらっております。

【K 委員】

だから実際問題としてはその基金の15億円を取り崩してやるか、やらないか、というようなことが議題というかここで検討する議題になってくるんでしょうか。

【大川課長】

どこまでまあ、国費と県費はもう決まっているんで事業費によって限度額もありますんで、起債もそうですし、いかに一般財源を圧縮していくかというところが重要になってくるんじゃないでしょうかね。

【K 委員】

ここでは15億円の支出がいわゆる妥当か否かというところについての結論を出す必要はない、ある。

【大川課長】

それはないです。あくまでも諮問を受けているのが規模の検討であって、結果、圧縮されることはあるかもしれませんが、今、具体的にいくらにしろとかそういったことはこの中で決めれないと思うんで。

【K 委員】
　ですよね。
【大川課長】
　はい。
【K 委員】
　ないという理解でいいんですよね。
【大川課長】
　ええ。施設規模に関する検討です。はい。
【K 委員】
　はい。だから民間の会社では要するにこの手のホテルを建てるのにいわゆる会社がいわゆる金融機関から仮にホテルだけでいくと28億の借金して投資をして、それをまあ返していくためには相当な努力が必要になってきますけれども、その部分については、いろんないわゆる過疎債やなんやかんやの使い方、組み合わせ方によって事情は若干変わってくるという、若干どころかだいぶ変わってくるという理解でいいでしょうか。
【大川課長】
　借り入れた額に対する。
【K 委員】
　そうです。だから我々たとえば本当に会社やっている人間からしてみたら、なんかやろうと思うと必ず金融機関なり国なりからお金を借りますけど、それはまるまる借金になるわけですよね。そのまるまる借金返していこうと思うとやっぱりその額に応じて相当な金額というのをいわゆる月々返済していかないといけないですけども、あの今回のこの事業の考え方としては基金の15億というところを元にしてあとは過疎債使う、県費も使う、そういうようなところで賄っていって、特に過疎債は7割がいわゆる交付税として返ってくるという。借金したけど7割返ってくるという理解でいいということですよね。
【大川課長】
　そうです。
【K 委員】
　はい。
【来米事務局長】
　15億円はこの事業をやるために積み立ててきた15億なんですよ。元々あった基金を崩すというようなイメージじゃなくて、やるために積み立ててきた基金であるというのは間違いないです。
【B 委員】
　あの、いいですか、いいですか。
【空岡委員長】
　はいどうぞ。
【B 委員】

すみません。先に、さっき H さんの時の質問の時にも思ったんですけれども、41億っていうたらまあ普通10パーが消費税かかると4億円になるがですね。で、すごい金額じゃないですか。ほんで高い金額のときは税込みとか税抜きとか言っていただけると説明の時にわかりやすいのかなと思うので、お願いをしたいなという風に思います。もう一つは先ほどの説明の中で、この前も言ったかもしれませんけれども職員を増やせない、今よりも増やさないといけない、梼原町では宿泊をする場所がない、寮とか住む場所の確保をどんな風にしていくのか。それは観光協会なのか役場かわかりませんけれども、それをしっかりと考えておかないと人の確保というのは出来ないと思いますので考え方としてどういうことかをお聞きをしたいという風に思います。

【来米事務局長】

観光協会として今ちょっと[町名]なんかがやっている、PFI 方式、いわゆる民間に、たとえばですけど、町有地に全額建てていただいて、それを借り上げるみたいな方法ができないかということでちょっとある業者にも相談して設計もして、ほんで町がお金を出さずにそういうことができないかということを模索して、できるだけ早くその提案を町長にできるようにしていきたいという風に。産業振興課と一緒に。

【B 委員】

はい。是非、あの検討を進めないといけない話だと思いますし、それでも逆に家賃が発生する場合は、家賃経費が個人ながか会社ながか別にして役場なんかは住宅手当25，000円やったかね、上限は忘れましたけどそれくらいもらうと思いますけども、なかなか梼原町で民間ではなかなかないのでそういうところも含めて全体の検討というのをこれからまた進めていってもらいたいなという風に思います。以上です。

【空岡委員長】

私の方からでいいですかね。いろんな考え方があろうと思いますし、今、予算的なこともまず非常に大事なことではありますけども、今現在ですね、やろうとするホテルそのもののいわゆる規模ですよね。それがまあどういうものであるかというところもしっかり議論していきたいなという風に思います。それで、今日の話の中でもありましたけどもいわゆる稼働率。それが35パーセントという風な説明で、収益分岐点というような形での説明をされておりますけども非常に35パーセントの稼働率でやるというか、非常にこうもう少し稼働率を上げてですよね、やればその同じ宿泊人数を年間確保するにした場合に計算上かもしれませんけれども、やはり部屋数が若干少なくてもいいんじゃないかなとそんな気もせんでもありません。それが35パーセントという数字がどこまで重要などうかは私にはわかりませんけども、年間あの梼原で雲の上のホテルで宿泊する人数を先に一番そういう風な何か想定がありますので、それを含めて考えると稼働率が上がれば部屋数も少なくて済むという風な気もせんでもないというところもあります。それと、これは何度かこの会でも話は出てましたけど、いわゆる大ホールですね。これはいろんな説明もあって、話し合いを深めましたけれども、まあ以前にはですよね、やはりその結婚式であるとか、大宴会であるとかそういうなのがホテルで本当にこう多くやれる、そういう時代がありました。しかしながら現在ですね、結婚式にしろ宴会にしろ、やっぱりこう縮小規模というか、そういう形でそれを目当てに作る施設ではち

ょっとないんじゃないかなという気もします。そう思うと宿泊客が朝食をとるのにそういうスペースにも使うというような説明もございましたけれども、そうするとそこをそういう食事の場として提供するんであれば、やはりそれはそれとして、それだけのスペースと内容も当然変わってくるでしょうから部屋の造りも、そういう形でまず検討する価値はあるんじゃないかなというまあひとつには思います。それとあとですね、これはあの第１回目から話に出ておりましたけれども、あの客室からのいわゆる景色といいますか、それがあまりにもこう山に近づき過ぎちょってですよね。それでまず現状のままですと、まあ実際に現地でどうこうしてないのでわかりませんけど、なかなか部屋にですね、日も当たらないとか、そういうような感じを非常に受けるところがあってですね。やはりそれにはあまりにも森林浴といえどもですね、泊まったお客さんが窓開けたらすぐそこに杉の木があって、日も当たらんというような部屋もいかがなもんかなという感じもせんでもないということも一点あります。それと、これちょっとあの今まで図面を見てもですね、非常にこうわかりづらいというか見づらかって私もあまりこう理解ようしなかったんですけど、回廊というのがありますよね。これが見た目にホテルの部屋があって、部屋の前に廊下があって、その前にいわゆる回廊という広いこう歩けるそういう施設があるんですけど、これが非常に広いといいますか、図面で測ってはないのでよくわかりませんけどもパッと見は２０メーターとか３０メーターとか幅があるんじゃないかなというようなものが１階から５階までずっとこうある。これの、まあ、あのいわゆる隈先生のいわゆるその太郎川公園に行くうえでの動線といいますか思いで設計はされていると思いますけども、そのホテルとはまあそのものとはこれからは別物件の施設であって、これもちょっとあまりにもかかりすぎるというか、これにかかっちゅう建設費用だけでも相当な金額じゃないかなというような気もします。そのあたりをまあちょっと図面を見てですね、これやろうとしたときに本当にこうこれだけのものが必要なのかどうかいうところはちょっとでも皆さんに考えていただけたらどうかないうような感じもしております。一つひとつ言えばキリはない結論というような思いがありますけれども、そのまあ駐車場ひとつとってもそうです。前回、駐車場のスペースと台数とかいう話が議論となって出てましたけど、これやったらどうやれば駐車場スペースがとれるかという、これもやっぱりそういう部分でやる必要があると。これは自分の意見、自分が考えたわけじゃないですけど、まあ人の話を聞くとですね、ある意味ホテルの１階を全部つぶして駐車場にして、２階からホテルにしたらどうよと、１階部分は全部駐車場というそういう発想といいますか、それも大いにあるんじゃないかなとそんなことも考えています。それも踏まえてですね、それはできるかどうかじゃなくて、皆さんがどう考えるかということを是非お聞きをしたいというように思いますけど。今の中で何かありませんかね。

【K 委員】

すみません。であれば、委員長申し訳ないですけど今の委員長の発言に対して担当される事務局長の方から答えられる範囲でちょっと答えていただきたいんですけど。その設計そのものが根本からひっくりかえるような話が今出たかと私は横で聞いてて思ったんでちょっと答えられる範囲であのここはこうであるこうであるということについてちょっと答えていただけませんか。

【来米事務局長】

まず稼働率については B 委員の方がもっとわかるとは思うんですけど、３０部屋の稼働率を１５

部屋にして稼働率を70パーセントにすりゃええじゃないかという議論はよくされますけど、ホテル運営に関してそこは不可能。ほぼ。なわけで夏場に15部屋が全部埋まって冬場にゼロみたいなことでの50パーセントとかになるわけですので、数が少ないと絶対にそれは下がっていく。よっぽど、なかなか売っていかんと、そこを部屋を減らして稼働率上げたらええじゃないかというのはなかなか本当は厳しいとこで部屋数があればあるほど絶対的に運営としては有利になっていくっちゅうのがホテルの運営のスパンであるという風に思っております。それから大ホールにつきましては、正直、その朝の朝食のバイキングであるとか会議室とか等に使うということがメインになっていくと思います。それと一番はここを避難所として扱って非常電源を3日間くらい軽油の電源でやる。そういうことでやっておりましてここは宿泊者がそういうことで寒い冬に停電になったと、どこに逃げるや、電気があるとこは大ホール、そこへ行って暖をとって、食事は冷蔵庫とからあも全部非常電源があるのでそういうことでの対応ができるという風にしておくのがいいんじゃないかということもあってそういうようなことでホールは決めております。また会議等もがんばってここは売っていくということで、今から支配人とも決めて昼食の団体、昼食もとっておりますのでここはがんばっていくので是非お願いしたいというところでそこは。それと夜景、夜景じゃないわその景観のところですけど、正直、隈さんが一番こだわっているところで、そこは方向的にそれでいこうということで町長も判断してそれでええじゃろうということで山の整備は責任を持ってこっちが買うてやらないかんということで今の方向になっております。日当たり自体は南からこう、なんて言うたらええ、窓側をずうっとくるんで全く当たらん、今の特別室からの景観がホームページとかに載っているのをご覧になったときはありますかね。ものすごいきれいな感じになってて、そこを非常にイメージしているんだと思います。テラスについてはその元々のコンセプトが温泉からずっと上のきつつき学習館までを一体的な整備をどうしてもしたい、寸断をせずに今みたいに。そういう意味でテラスをずっと繋がる動線にしていくというところで、隈さんは考えているんですけどここは確かにその大きすぎるのかもしれませんので、ほんでその辺のことは検討する余地は十分あるという風に思います。駐車場に関して少ないというのは出ちょったがでしたっけ。駐車場は割とその宿泊者は大体この屋根の下に泊めれて、あとはその太郎川の何言うたらえいろ、今の水車とかあの辺に何十台も置けることは置けるのでちょっと遠いですけど、台数的には結構な台数が置けるのかなという風には思ってますが。今のところ。

【空岡委員長】

ひょっと何か皆さんの方からご意見ございませんか。

【B 委員】

会長、ひとつだけ。

【空岡委員長】

はいどうぞ。

【B 委員】

前回と被ったらいかんので止めちょこうと思いましたけれども、公園とホテルの一体感はそれであると思います。ただ温泉の一体感は今のままじゃ図面見た限りではないという気がすごくします。

経営状態の方もある程度温泉にもお客さん入ってもらわんといかん中で、あそこの駐車場は少ないという風に思いますので、全体としての前回も言いましたけれども、まあこの太郎川公園全体としての計画、駐車場、そして人の動きっていうことを検討していってもらいたいなという風に思います。以上です。

【空岡委員長】

他になにか。どうぞ。

【F 委員】

規模感を検討するということでちょっとあの、先ほど話も聞いて考えてたんですけども、具体的にまあこういう経費がかかってこういう数値目標がなって、そしたらこれは妥当なのかと考えるのもありだと。もちろん必要だと思うんですけど、それってかなりプロの仕事だと思いました。で、じゃあ何を考えるのかなと考えたときに、結果として何が欲しいのかということを先に考えて、たとえばこれだとですね、16ページの経済効果、これ金額だけで出していると思うんですけれども、35パーで30室だったら20年後は51億引く4．4億で47億円ぐらい、6億円くらいの経済効果があると。とか20年後42室だったら56．4億円足す1億円で57．4億円の収入になると。まあこういう風に考えると、じゃあたとえば金額だけで考えたら、まずいくら欲しいんやと。20年間でプラスいくら欲しいんやというところから考えて、これがたとえば80億円いるんだと。今後の梼原の財政に対して20年間でとにかくプラス80億円くらいつくっているんやっていうことになったらですね、そのいくら投資するのかとか収支計画とかはそれこそ専門の方とか役場の方が考えていくとして80億円いるんだったら80億円稼げるプランを考えてもらう。80億円のプランで行くぞとそれしかないと思うんですね。そのプラスの収支が10億円でいいよというんだったら10億円のプラスになる計画にしたいと僕たちこう意見を申し上げて、それに対して計画してもらったらいいと思うんで。だからあのそういう意味でじゃあそういう意味でこれを見るとですね、54室だと61億足す、20年で61億足す7．2億円で68億円。42室だとさっきの57億円でですね、10億円ぐらいの差ですかね。まあこう考えるとですね、ちょっと僕ざっくりして大変申し訳ないんですけど20年で10億円の差、つまり年間5千万円の金額的な差だけなんだったら、だったらこれ42室でいいんじゃないかなと僕は思いました。もっと言うと下の30室の場合ですね、46億円、20年間で46億円。42室と比べるとまあ10億円くらい違うと。まあ別に20年で46億円でもいいんじゃないのかなと。っていうのは町の財政とかもあると思うんですけど、まあはっきり言ってこれで全てが梼原の将来が変わっていくという、その10億円の差で変わるのかなというのがあるので、あの今、ひとつそういう風に考える、そういう風に何がほしいのかというのを考えた方がいいのかなと思ったところでいくと、まあたとえばこの54室までいらないんじゃないのかなと。リスク的に。まあ出来ればリスクは小さい方がいいと思うので。あともうひとつ。そのそもそもの目的として経済効果だけではなくてやりがいとかこの町に住みたい町にしたいとかっていう目標があると思うんですね。これは経済効果っていう数字にも表れているかもしれないですし、直接的なやりがいとかこの町に住みたいっていう結果があると思うんですよ。もしそっちの結果が大きかったら、逆に言うと税金入れているので別にプラスになる必要はないと思うんですよね。10億円入れて、そのままお金はそのまま使っちゃったでいいと思うんで

すよね。たぶんそれは道の駅とかあとは職場としての雇用とか、あとはこの町が誇りに思えるような建物だっていうところがあるので、もう少しどういう結果が欲しいのかっていう議論が進むという方向の議論もあったらいいんじゃないのかなと思いました。そういう意味でひとつ僕が思うのは、この建物がお客さんとして町民が使うという方向の考え方は僕は全然しなくていいんじゃないかなと思ってます。ですからまあ誇りに思えるホテルにはしたいですし、活躍できるホテル、生産者だとか従業員だとか経営者とかもいると思うんですけど、活躍できる町にはしたいんですけども、僕たちが使ってどうかという風な視点はあまりいらないんじゃないかなと思っています。

【空岡委員長】

はい。他に何かご意見等ございませんでしょうかね。

【H 委員】

はい。

【空岡委員長】

どうぞ。

【H 委員】

私、ホテルの専門的なことの経営についてはもう、ほとんどあのわからないことが多いので、できれば今の話とかが出た場合にもホテルのまあ専門家なり、あの経験されている方などに話をされていく、いただけたら色々と意見が聞きたいなというところがあります。そういったとこ、ホテル経営についてわからないながらでもいろいろと資料付けていただいたり説明していただく中で、あのまあ時代もこれから変わってくると。新聞記事でもそうですけどもいろんな情報を見る限りでも旅のスタイルも変わってくる、団体旅行が減って個人旅行が主流になっていくなどの話も聞きます。また現時点で梼原町の方で把握できている観光バスの台数を聞いても、この今現状話されている規模への心配が消えないというのが町民、住民としての、あの一人です。あの本当にこうやって計算して考えられているということがよく伝わってくるんですけれども、やはりあのこれがこのまま20年先も30年先もリニューアルや修繕をかけたりしながらその先、本当にこの規模で経営し続けていけるのか、また、現案がありますけれども、この規模でのホテルのメリットとデメリットとリスク、規模を縮小した際の考えられるメリットとデメリットとリスクを今一度はっきりとお聞きしたいとは思っております。

【空岡委員長】

はい。今、たしかにここへ予算的なことで収支での計算は出てきております。これを見る限りですね、こんな理想でいけばですね、そらなんの問題もない。これはもう誰も心配はしなくてもいいということになろうと思います。まあしかしながらみなさんここまでにこういう、これが現実的に数字として、結果として本当にこういう成果が本当にだせるのかどうかというところがやはり誰しも保証のできないところではあってですね、それでまあそこをまあみなさん心配はされておるがですよね。という話。まあ職員の数をひとつとってみたときにですね、やはりまあホテルで約、現段階の計画で83名の従業員が必要になってくるということです。それに道の駅部門を足すとですね、8名ほど増えるというようなことになるというような説明をしていただいておりますけども、やはりそんだけの規

模の組織をですよね、安定的に本当にこう経費を出して実質やっていく事業が、まあプラン、やることですからまあ誰しも保証はできませんけど、本当こう現段階で作図として本当にこうある程度の同意があるのかないのかというところはですね、非常にこう皆さん危惧しちゅうところではあります。やはりこれをやるとすれば、まあこれはどうしてやるのかという、やっぱりそういう説明責任がおきてきますよね。その分のこれは間違いなく計画どおりいけるんだというそういうそれなりのまた必要にもなってくるかなというような気もいたします。そんな中で、今現在28億ですけど、これは今この先の話をすると本当にこう28億では済まないですよね。5億、6億は余分にいるんであろうと。現状のままでやったら。とするとやはりどっかではですね、やはり構わないところは削って、そして負担をいくらかでも少なくしてやっていくという姿勢は必要じゃないかなという風には私は考えるんですけど。まあ、それは私の考えですので、これから皆さんのお考えも聞かせていただきたいと思うんですけど。

【K 委員】

いいですか。

【空岡委員長】

どうぞ。

【K 委員】

はい。えっと私は逆に委員長とは申し訳ないんですが反対の意見です。あのさっき F 委員さんが言われた話を元に話が進んでいくところは理解できるんですけども、まあなんかの帳尻合わせのように規模を縮小していくというようなことをしていく議論を進めてる間に、まあ正直言うて今先ほど少しお話し出ましたけど資材高騰って異常な状態になってきている。で、これすべてはコロナウイルスのせいであって外国から入ってくる資材も本来定期に入ってこないといけない資材もまったく入ってこないというような状態なんで、実際、梼原でも歯科医院の建替えが遅れてますよね。ああいうことが頻発していく。だからここの話が決して全部無駄なんて言うつもりは全くございませんから誤解いただきたくないんですけども、時が経てば経っていくほど商機が、いわゆる商機、商売のチャンスがどんどんどんどん先に延びていって、で、かかる経費も余分にかかっていってというようなことが生じてくるんじゃないんかなという風に私は思ってますので、私は現状維持プラスアルファ。まあ多少なりとも一部屋の面積大きくして客単価上げていくとかですね、もうちょっと前向きなと言うたら失礼かもしれませんけどポジティブな考え方をしていきたいというのがひとつと、あと一点だけすみません。自分なりにもホテルの専門家ではないんですが色々これに関して勉強させていただいてると、先ほどにも申し上げたかもしれませんが、今フェーズフリーという災害時におけるものの考え方というのがあって、平常時は通常のホテルとして機能しているけども、一旦この間のような日向灘の大地震なんかがあったときの避難先として機能している。その機能をもたせたホテルも日本全国でちょこちょこ現れてきているみたいです。ましてやこの、雲の上の、新しい雲の上のホテルは公設民営ですから、当然そこの部分というのは先ほど来、事務局長も言われましたけど重要な部分ではないかなという風に思っています。なんか災害があって行っても集会所に逃げ込んで集団でみんなでそこで雑魚寝してっていうのが今までの形態でしたけれどもコロ

ナウイルス関係もあって、可能な限りは個室化も図っていかないといけないですし、もちろんその非常電源にしても、非常食にしてもいわゆるその快適に避難生活がしばらくの間遅れるっていうことを前提に公設民営のホテルであるならば考えていく必要もあるかなという風に思ってますんで、私はホールの縮小もあえて必要はないという風に思ってます。あればあれでその時に経営にタッチしてる側の人間がそれこそいろいろ知恵を絞って集客をしていって活用していって、災害というフェーズが変わった段階ではそこをいわゆるその快適に避難ができる場所として使用していくっていう。まあそれがホテル全体がそうであればなおさらいいですよね。高齢者が梼原は多いですから、やっぱりこのウィズコロナでしばらくの間コロナウイルスというのはずっと続いていくと思いますんで、だだっぴろい部屋で何もかもがひざ突き合わせてせまっ苦しいところで避難するというようなことは私はナンセンスだと思ってますんで、そういう意味合いにおいてもここにホテルをつくる意味っていうのはあるかなと思ってます。以上です。

【空岡委員長】

はい、他に何かありませんか。どうぞ。

【I 委員】

僕はちょっと今、委員長と K 委員が全く逆の意見を出したわけですけど僕は年齢のせいかもしれんけんど委員長の考え方の方に賛同したいと思います。ひとつは今この今の世の中の流れで、わしも長いこと林業の会社を経営してきたがじゃけんど、今のこの世界の流れじゃなにをみてもあまりプラスになるようなことはないと思う。それで世界そのものが行き詰ってくると思う。その時にこんなホテルにしろなんにしろ、行き詰まってしまうことが起きりゃせんろうかと思って心配する。それだけ。そのことだけはひとつの頭にあるけ全体的なことを縮小せえというかちょっと自粛したらどうかというような感じよね。それだけです。

【空岡委員長】

はい。えっと、今、K 委員の方からですね、ホテルのまあ避難所としての、防災的な活用があるというような話もございました。これは当然、それはあの必要な状況ではあろうと思います。梼原町にはですね、災害に対する防災計画があってですね、それぞれの避難計画であるとかそれらの施設こういったものを常時設備整備をしていっております。まあ各区においては学校の旧校でなんとかそういう耐震をやりながら避難者が安心して避難生活ができるというような空調設備とか自家発電を備えたような設備をみんな順次各区で整備しておりまして、それなりのまあ施設があって、まあそれはすべてホテルが全部を担うということはなかなか難しいであるでしょうし、当然、ホテルもその一角として避難所としての機能を持つということは当然のことではないかなという風に私も考えます。

【D 委員】

いいですか。

【空岡委員長】

どうぞ。

【D 委員】

えっと、すみません。私もですね、あの数字とかこればあ来るからこうとかそういうのはわからないんですけど、最近のお客様の、お客様がおいでるんですよね、お店へ。するとホテルがなくなっているねと。いや、もう楽しみでたまらないから是非梼原大ファンなので是非梼原へ帰ってきたい、今度できるのはいつですかとかものすごくね、楽しみにしている人もいるんですよね、要は。あの言われんけど井の中の蛙じゃないけど、梼原の中の人は太郎川近辺の観光客の動向とかにはあんまり関心を持ってないと思うんですよ。でもね、太郎川には今でも結構人は来てまして、で、今あの天狗高原に泊まりに行くっていうこともあるんですよね。でも梼原は図書館があって子ども連れてきても一つやきすっごいえいとこでって。ほんでものすごく彼らから早くホテルを建ててくださいというて言うてくれている人がいるんですよ。で、私たちは何を目的にこのホテルを考えるかって言うたら、やっぱり梼原ファンを増やして梼原へ来る人が泊まってくれて外貨を稼ごうじゃないかっていうのが私は根本やと思っているんですよ。それをどんなにするかとかノウハウ的なものはわからないですけど、ホテルをこれからやっていく人たちのやっぱりその、そこに私たちがどんどんこういう風にしてもらいたい、こういう風にしてもらいたいとか、部屋数のことなんかはなんか言われてもよくわからないんですけど、バス一台はきたらいいよね、でも家族もいるよね。で、最近あの高級なホテルを選びたい、あのゆったりのんびりする人もいる。けど、これがいつまで続くかわからない、私の危機感としたら梼原ファンがこの３年間の内にどんどんいなくなっていく。そこの危機感の方があるので早くあのこういうホテルが建ちますよ、待っててくだいさいねっていうことを言いたいという部分もあります。そういう意味でこの縮小とか、確かに大きいのは心配なところがあって、真ん中の４２かなと思うんですけど、でもやっぱりこれもやり方一つだと思うので、どんな風にホテルをもっていくかというところのやっぱりその方向性とか、そっちが私はものすごくこう大事じゃないかなと思うんですけどね。そういうその期待をしているよそからの視点がいっぱいありますよということを一言、言いたかったです。

【空岡委員長】

はい。H さんどうぞ。

【H 委員】

今、話していただいたような話はものすごく大切なことで、それはこれまでの委員会の中でもあの何度も繰り返してきたことかとおもいます。そこの話も不十分だと。もっとあの話し合っていくべきだろうと感じてます。本当に晴れない不安なんですけれど、委員会に参加してもたとえば今回検討委員会はプラン・ドゥ・シーの小池さんがコーディネーターとして入ってくださってます。素朴な疑問なんですけれども、役場の方が一生懸命考えられて出されたこの稼働率や計画のことなんかと、あと第２回の検討委員会の時に小池さんの方が自社の方で照らし合わせて出した稼働率のあまりの違いにそういったところは不安が消えないです。実際、先ほど Ｆくんが話されてたような話も Ｄさんから出たような話もそういった不安がなければもっと前向きに検討していけるかと思っています。その辺りはどのように受け止めたらいいでしょうか。

【B 委員】

かまん。

【空岡委員長】
　どうぞ。
【B 委員】
　答えるゆうたらいかんけんど。あのまず、先に H さんが言われた不安っていうかそれは町民の皆さんも一緒やと思いますけれども、ちょっとみんなホテル経営はどんながやろうみたいなことを考えだして、成り立つんやろうかみたいなことになってすごい不安が、すごい多いのかなという風にすごい思ったところです。それは例えば私たち[団体名]がホテルを受ける時も同じような思いを持って、ただそれから今まで10年ちょっとですかね、経営をさせていただいてその中である程度勉強させてもろうたこともいっぱいあります。ほんで不安が失うたことも、あの不安が少なくなったところもあります。ただ、あの今でもですけれども団体客から個人客という流れはあるにしても、たとえば[企業名]さん、有名な[企業名]さんが何度やっても失敗しているところはあるし、逆に[企業名]がんがんホテル太らしゆうし。ほんで小池さんがそれこそ言われたようにうちくがどう決めてどうするかということだろうと結果思うがですね、で、D さんがさっき言われた支配人も今、営業とかそれは私にもですけども、はよう建ててやという話は本当によく聞きます。あの早くしていただきたい。梼原は魅力的な町やき、旅行会社の方もはよう送りたいのでお願いしたいという話も聞きます。ただあの皆さんの不安というのはすごく、あの私たちは実際経営をしたので、判子も押してお金も借りてやったので、不安は本当によくわかります。で、私は先ほど空岡さんが言われたがとちょっと似ている。いると。経営ですのでいるもんには十分お金を使っていただきたい。そして経営の勝つような部屋数も欲しい。ただ一方で減らせるところはどんどん減らしてもらいたいっていうのが私の思いです。すみません。以上です。
【A 委員】
　はい。
【空岡委員長】
　A さん、どうぞ。
【A 委員】
　はい。色々お話伺っているんですけど、私が一番最初に疑問に感じたのが、42という数字だったんですね。42という数字の根拠はなんだったのかなということを考えた時に、まあこの会議ではなかったんですが、この回答はバス1台というのがベースになっている。だからバス1台来ても1台も受け入れられない状況というのが、やっぱり私がバスで行くにしても分宿しなきゃいけないっていうようなことになるとなんとなくやっぱりあそこはだめだなっていう感じがしますね。したがって、最低バス1台がそこで引き受けてもらってみんながそこで楽しめる、そういうホテルであるということは最低条件かなと。それからホールなんかでもこういう時期ですので、やっぱり朝食、こういう山の奥の方へ来ますので次の予定がだいたい一緒になるんですね。そうすると7時半、8時半、9時半なんて悠長なこと言ってられないので。まあ高知市内なんかだったら別にいいんですけど。田舎で同じ時間帯に食事をして、そしてその日の行動がほぼ同じように動き始めるというそういう特性を考えると、やっぱり朝のバイキングにしろなんにしろその宿泊客が全員食事がとれる体制がや

っぱり必要だろうなあと。そういう最低限のところを守った形っていうのはどういうものかということをきちっとしたうえでやっぱり考えないといかんのじゃないかなと私は思いますね。だから30が少ない54が多いじゃなくて、やっぱり根拠をきちっとしててそのことをきちっと疑問に思われる方に伝えて、そして後は任してください、ホテル経営は私たちがやりますっていう、そういう人をやっぱりきちっと選ぶべきであって、そしてこの場にもやっぱりそういう人がいないとだめですよ。これからを俺が引き受けていくんだと言い切っていくような人がいないから中途半端なことになっていくんじゃないかなという風にわたしは感じます。以上です。

【空岡委員長】

はい。何かほかにご意見ございませんか。どうぞ。

【F 委員】

すみません、あの先ほど20年で10億円が大したことないお金とちょっと乱暴なこと言ってしまったんですけどごめんなさい。町の一年間の予算って全然知らなくて申し訳ないですけどもいくらぐらいなんでしょうか。

【大川課長】

年によってばらつきがあるんですが、約60億です。

【B 委員】

特別会計入れて言っちゃったら。

【大川課長】

特別会計も入れると90億ぐらいはあります。

【F 委員】

そうすると、金額ももちろん1億円、まあ1万円でも大切ですし、1億円ってすごいなあと思いますが、やっぱり、それ、もちろんマイナスにならないとかもちろんなんですけれども、その他の住みたくなるような町に貢献するとか金額に表れない部分って結構大事なのかなというのは思いました。で、その時に縮小、規模縮小、今の予算より小さくするときにですね、もし削る方向だとしても慎重にやらないと金額的な影響ももちろん、金額が、つまり投資が多すぎるからそれを少なくしろと言ってもですね、結果的にまた町民が自慢に思えない建物になってしまったらそれこそ本末転倒になってしまうのかなと思いましたので、思いました。どうなんですかね、どういうホテルだったら、まあホテルがもういらないと思う方もいるのかもしれないですけども、どういうホテルだったらうれしいのかなと、納得できるのかなっていうところを考えて、僕の場合はみなさん賛否両論あると思いますけども隈研吾さんの建築すごく好きなので、まずはそれであることが前提。たとえば客室数を減らしてもですね、じゃあ収支的にはちょっと厳しくなると。20年間の予想が10億円、20億円。失礼な話ですけど、たとえば10億円下がったとしてもですよね、例えば5室しかつくらない、10室しかつくらないで常に満室のホテル、隈研吾さんの建築のホテルなんだとなって、内容も非常に町民の人も納得するというか自慢したくなる誇りに思えるようなホテルになったらそれはそれでひとつある意味効果があったということになると思うんで、思います。はい。

【空岡委員長】

はい。まあなかなか難しいところではあると思うんですけども、町民の考え方も色々、千差万別あってですね、やはり観光業に携わる方から見ればやっぱりこう隈さんのお客さんがいっぱい来るようなお金に糸目をつけずにいいものをつくってお客さんに来てもらって見てもらうというまあそれも一つの考え方であろうと思いますし、それから本当やっぱりこうホテルとしての運営が本当にに実質成り立っていくのかどうか、やっぱりできて、計画は良かったけれどもいざ始まってみて数年たった時にはやはり町財政を逼迫するような状況になってしまったというようなこともないとは言えなわけですよね。これはね。そこを今、慎重にやっぱりこう考えてみんといかんと時点でこういう検討委員会も町長も設置をされたんだろうという風に思います。元々の計画があってそれがどうかというような検討ですから、どうしてもそれが、それを私もまだ大きくするとかそういうことはなかなか議論としてはしにくいかなと私はそういう風に感じますし、やはりいいものであってもやっぱり最低限自分たちの自分の家を作ってもそうですけどやはり簡便なところは簡便にしてですね、やはり支出を抑えていくという、これはまして税金を使うわけですからそれはそういうものの考え方に立ってやらないとやっぱり町民はやはり多くの町民は納得しないんじゃないかなと私はそういう風に考えております。これでちょっとここでですね、あの小池さんもおいでいただいてますから、ちょっとその稼働率とかですよね、実際出ちゅう試算ですね、これについて収支の検討資料もいただいてます。小池さんところにいっちゅう、いってないかな。これは小池さんところにいってないですか。

【小池氏】

えっと、稼働率についてですね。

【空岡委員長】

はいはい。ちょっと構いませんかね。

【小池氏】

えっと、それはどういう風にお答えすればいいですかね。僕らがその試算したのでいくと、大体その一部屋で2万4千円くらいで65パーセントにしないと利益はでないですねっていう話をしましたが、まあその利益の考え方が違うので、僕らやっぱり民間でお商売をしているのでいくらかけたからいくら回収しないきゃいけないと考えるとやっぱりそういう数字になります。で、僕らの考え方でいくと42パーとかだったらまあ正直お金としては生まないと思います。生みにくいかなと思いますね。あの補助金だったり税金とはいえ、お金はお金なので。で、稼働率に関してはそういう風に思っていて、まあこの検討委員会に関してはまあいろんな意見をこうまずフラットにあげて、で、それを元に意思決定をする機関だと思うんですけど、重要なのは運営する責任者は誰で、意思決定、このホテルについての方向性の意思決定者は誰でていうところで、あの、やりようは無数にあると思うんです。で、どういう風にやるっていっても、誰かから絶対批判はもらうし、賛同する人もいるし、あの、正解はないと思うんですけど。さっきちょっと一回議論になったんですけど、今の時点で僕は理想値でいいと思ってます。稼働率にしても何にしてもこうやりたいんですでいいと思っていて、じゃあこうやりたいんだったらこうやりましょうってまず決めることが重要で。決めた後にそこで決めちゃったんだったら、後でうだうだ言わない。それを全員で正解にしていくっていうことだと思うんです。だからまあ稼働率についてはそういう風に考えていて、僕がまず聞きたいのは運営の責任者

は誰で魂持ってやるのは誰で最終意思決定者は誰ですかってことですね、聞きたいのは。で、もしそれが町長が最終意思決定者なのであればなんでいないんですかって僕は思います。以上です。

【空岡委員長】

はい。どうもありがとうございました。まあたしかにホテルですき、まあ運営を誰がやるかいうのはもう本当に重要なポイントで、それによって本当にお客さんをよんでくる力も違うでしょうし、いろんなものあってくるんだろう思います。それはまあこの会の1回、2回の時もそうでしたけど現実的には今の観光協会の来米事務局長が来て話をしてますけれども、話の過程の中でおいてはですね、まだあの実際に現実に町と委託契約をしたわけではないのでということで実質の責任者ではないわけです。それで将来においてこれ実際にやるとなっていつの段階で運営者と委託契約いつやるのか私は知りませんけども、建った時点でやるのか設計が決まってからやるのかそれはもうわかりませんけど、まあそういうところもですね、実際、今、小池さんもご指摘があったようにですね、非常に重要なポイントにはなるところですよね。まあ今までは商工会、振興組合ですかね、で長年経営をやってこられて、まあその前はまあいわゆる JA さんがやり、そして民間のホテル業者が入ってきてやり、そして今は商工会がやっておって今度はまあ観光協会がやるという前提でこのことが進んでますけども。[594字削除　仮定による個人等への発言]

【小池氏】

そうですね。えっと、正直、僕、なんにも恐れずに言うと意思決定者がもしトップの方なのであれば、まあ僕は全然、皆さん、あの、利害関係ないので言うんですけど来ないのおかしいですよね。皆さんの時給使って、時給というか大切な時間を使って集まってもらってて、なんかちょっと僕、うちのボスだったら絶対来るなって思います。まあ僕もこれで批判されるかもしれませんが。

【空岡委員長】

いえいえいえ、とんでもないです。まあそのいろんな考え方も違いますんで、あの本当にこうひとつの考え方に最終的にまとめて答申ができるかどうかということは若干今の段階では疑問ではありますけども、やはり私たちは梼原町民、梼原町、財政そういうのを踏まえてですね、やはり観光産業というものをどうあるべきかということをしっかりこう考えてなんとか取りまとめた意見書を作りたいという風に考えてますのでどうぞ皆さんの忌憚のない意見をですね、どんどん言ってもらって話を進めたらと思いますので、ひとつその点お願いしたいと思います。

【小池氏】

運営の責任者、主体者ってのは決まってないっていうことですよね。

【空岡委員長】

決まってない。

【小池氏】

決まってないですよね。

【K 委員】

決まってないんですか。

【来米事務局長】
　いえ、私としては議会でも今まで説明としてしてきた中で観光協会が運営ありきということで進んでいる。そういう意味で町と観光協会が一体的なことになってという認識で皆さん思って説明しているので、そこがなんというか歯痒いところというかそういうとこです。
【K 委員】
　あの、小池さんから今、そういう質問があったんで答えていただけたらと思ったんですけど。ただ今日、僕、なんか意見ないか言われたんで、今日ちょっと、キーワードがいくつか出て、それよかったなと思ってるのは、あのごめんなさい。F 委員が言われた要するに町民が誇りに思える建物になるかどうかっていうところってここものすごい大事やと思うんですよ。それと、D 委員がさっきおっしゃったはよ作らないかん。で、私も実際問題、去年、秋、あの小池さんとこにお伺いしたときにちょうどエコプロダクツ2021というイベントが東京であって、ビックサイトの方であって、行って、まあ、たくさんの来訪者の方が来られて背中のところに町から預かってきたポスター、まあいわゆる隈研吾さんが作った建物のポスターを貼っておると、皆さんそれ見て、あ、あの梼原町ですかって言われる方が非常にたくさんいらっしゃって、で、いっぺん行ってみたい、是非。雲の上のホテルありますよね。あります。今建替えてるんですけどね、建替える予定なんですけどねって言うと是非行ってみて泊まってみたいという方が、まああの、その万の数ではなかったですけどまあまあいらしゃったというのもあって、そういう意味においても D 委員がおっしゃってるみたいに早くやるべきやというところっていうのはよく、あの理解できます。だからそこらを踏まえて B 委員がおっしゃったみたいに、そのかけるところはかけるけども、委員長もおっしゃったみたいに節約するところは節約するっていう考え方も必要やなと思いますし。でもなんかなんとなく今後この話を進めていく上においてキーワードが見えてきたなというところと、まあひとつ、これは安心という意味じゃないですけど財源的なところにいうて言うと、もうそのためにわざわざ15億積み立ててきてますという話と過疎債使えば7割返ってきますという話で、要するに建物建てることに関してのいわゆるその町民負担みたいなところについてはまずまず、あのクリアできているのかなというところですから、あとは作った後どれだけがんばってさっきの小池さんの話じゃないですけど魂込めて運営していってそこで収益上げていって町に還元できるか、町民一人ひとりがそこでなんらか関わっていって、潤っていくかというようなことが大切なんかなという風に思いました。
【空岡委員長】
　いろいろ議論の中で、ホテルが太郎川で早く再生して必要だということはもう皆さん同じ意見だと思います。誰しも太郎川のホテルがなくてですね、いいというような考え方を持った人は誰しも一人もいないと思います。まあその中でどの程度のホテルを建ててやっていくのかというそういうことですので、まあこれも3月を目途にこの検討委員会も開催していくわけですけれども、そのものの工程表というものはそれなりに行政の方で作られておるようですので、そのホテルの建設についての時期がそれほど遅れるとかそういうことではない。ただこの検討委員会をやるうえで1年は遅れたんかな。
【来米事務局長】

いや、正直その、これをいうたら怒られるかもしれんけど、もしこれを縮小して形を変えるということになったら今70ぐらい進んじゅうががゼロに返るので絶対1年以上は向こうにいきます。5年後とかになるのは確実じゃと。設計もそういう風に話しておりますのでそれは間違いないと思います。

【空岡委員長】

設計の関係でね。うん。

【H 委員】

大丈夫ですか。

【空岡委員長】

はいどうぞ。

【H 委員】

すみません、私もあの、この現計画への不安点やら、ばかりを話すのは私も本当はしたくはないんですけれども、私の元に届いた意見とかも含めてまたこの隈研吾さんのデザインも出ましたのでお伝えするだけでもお伝えしたいと思うんですけども、あのすみません。そもそもが全てがこの建物ありきで話が進んでいるのではないかと不安に思われている町民の方もいらっしゃると。普通ならコンセプトがありお客様の客層を定めその客層を得るための予算に見合った建物を建てるのが順序だろうと。コンセプトや客層が曖昧なままに今の新ホテルの完成予想図ができてしまっていることやお話が進んでいること。また設計が隈研吾事務所が随意契約で行っているということ。町民の中には本当、あのどれだけいらっしゃるかもわかりません。隈研吾さんの建物を誇りに思ってらっしゃる住民の方がいるのも事実だと思います。で、あえてこういった意見もありますよというところですけれども、競争入札ではなく梼原町の直接指名だと契約書に何が書かれているかも重要だと。また、悪く言うと隈研吾事務所の言い値でそれを丸のみにしてしまうような状態になってはいるんじゃないだろうかというような憶測もでるような不安や心配もある。人口3千人台の自治体にとってこの予算の公共事業は相当なもの。この委員会で出た意見、各説明会で出た町民の意見をしっかり聞き入れたうえでホテル経営のプロと共にコンセプトや客層設定を見直して建物の設計に入るべきだという意見もあるということをお伝えします。

【空岡委員長】

はい。

【H 委員】

はい。

【空岡委員長】

はい。ありがとうございます。本当、今言うたように本当に多様な意見があることはまあ事実、皆さんもそれぞれお聞きをされるんだろうと思います。それぞれの地域においてですね。まあこれで、まあこれはそれぞれ個人の考え方にしかならないですけれども、まあ検討委員会の中で議論をして、これが太郎川公園を太郎川再生を含めたものの規模についてのまあいわゆる諮問を受けておりますよね。そうするとやはりその規模が今現状のままでいくとすると、それはまあ適正だと

いうような風に皆さんが納得できる形のようになっていかないと答えは出ないと。
【K 委員】
　ちょっといいですか。
【空岡委員長】
　どうぞ。
【K 委員】
　すいません。あの逆にちょっとＨ委員にお聞きしたいんですけど、あの、先ほどなぜ隈研吾の設計なのかという話で不安に思われている町民がいらっしゃるというお話だったんですかね。その随意契約でなぜ隈研吾なのかとか。
【H 委員】
　そうですね。言葉のニュアンスでとる意味合いが、特にあの、議事録になると変わってくると思うので私もどこまでというのはそのどういうことだということがその意見がある方の立場で言うことはできないんですけれども、なぜ隈研吾さんに今回もホテルの依頼を頼むのかという説明はされているのかどうかも私はわからないです。このような意見が出ているというのが事実で、これが言えないどこに言っていいのかもわからない、話も進んでいるということがあることも事実だと思う、こういうことが、こういう意見の方もいるということです。
【K 委員】
　だから逆に H さんにということではなくてその意見を言われている方にお聞きしたいんですけども、私も町民もう20年、町民長くやってて、隈研吾さんに設計をお願いするというのは前町長時代にその話があって議会で議決もされてて、で、それで情報も公開されてきている、もう何年も前から話が進んでいるのになぜ決まったのかがわからないと言われるそこが私にはわからない。そのわからないっておっしゃってる方の、ということです。
【H 委員】
　すみません。私が今その発言した内容と先ほど説明しました内容の言葉がどうだったかわからないんですけど、なぜ隈研吾事務所、隈研吾さんの設計だったのかわからないということは今、私このまま読み上げたのでそのような風には伝えてないと思いますが。あの一番最初、委員会第2回の時に伝えたように今までの梼原町のやり方というものに対して疑問をもっていたけれども、ずっといろんなしらがみがあり、発言もできず知らないところで決まってきたというようなこういったことがこういった意見に繋がっているのではないかと私が憶測では思うわけです。
【空岡委員長】
　それはあのＨさんが地域の方からＨさんに対してＨさんがこの検討委員会のメンバーであるということがあって今言われたご意見だろうという風に思います。あの隈研吾さんに梼原町の設計を全部頼むというようなことが決まっちゅうとは私は思わんがですけども。そんなことはないでしょ。ね。まあそれはやはり観光協会の中で今まで隈研吾の建物を梼原町の観光として売り込んだ、そういういきさつの中でやはりそこを狙って隈研吾事務所にお願いしたというこれはそういうことでしょ。

【K 委員】
　逆にすみません。逆にその方に私もしお話しできるんやったらお話ししたいんですけど、以前、[番組名]という番組に隈研吾さんが出演された翌日に役場のサーバー、あのホームページが開けられないくらいアクセス数が殺到して結局サーバーがダウンしたというような事実がありましたよね。やっぱりそれだけのネームバリューがあるからこそっていうところの部分があってその隈研吾さんに頼むということを逆手に逆手にとって、隈研吾さんの今あるネームバリューを利用しない手はないだろうという梼原町が町民がっていう発想にはならないのかなという素朴な疑問は、あの、あります。
【空岡委員長】
　まあそこはまあ、それぞれの本当に考え方があって、まあこのことがどうではないんですけれども、やはりあの隈事務所の建物に梼原町が全て観光産業がおんぶにだっこで本当にいいのかよというそんな声もないでもないし、それはいろんなことが出てきたんだろうと思います。そこはそれとして本題の方に入りたいと思うんですけども、皆さんの考え方としてはこれはあの、規模についてですけど正直どういう風に考えられますか。その今のいわゆる投資金額でこれが梼原町の財政で本当に持っていけるのかどうか。そこまで自分たち責任はないかもしれないけれども、こんだけのホテルが建ったときに将来に渡って本当にこう経営が安定した経営がやっていけるのかどうか。その辺もちょっとだけホテルに関連しちゅう同じ同業者の社長さんに聞いたんですけどこういうリゾートとかそういうホテルじゃないですけどビジネスホテル的なホテルの知り合いから聞く、社長さん。その方なんかに聞くとですね、実際60パーセント、70パーセントの稼働率がなかったらやっぱりね、赤字になるよという風なことを言われた記憶があります。そのことが内容を聞いておるわけではないんでそれ以上のことはないんですけど、やはり稼働率が35パーセントくらいで本当にこんだけの黒字がでるような本当にそんな試算は成り立つのかなというのが一つの疑問ではあるがですけどね。
【来米事務局長】
　客室稼働率と定員稼働率との多分違いだと思います。その社長は多分客室の稼働率を1人泊まっても100パーセント、2人泊まっても100パーセントというカウントを客室稼働率ですのでそっちでやる人も色々いるんですよね。そっちがどうなのかなと。これはほんで定員稼働率なんでこういう風なことになって、もしこれ客室稼働率に直したら60ぐらいはいくと思います。
【B 委員】
　いいですか。
【空岡委員長】
　どうぞ。
【B 委員】
　あの稼働率もなかなか、稼働率って、皆さん、この今回で皆さんよく聞いてもちろん稼働率っていう基準が今の客室稼働率と客数稼働率とっていうがが二つあるがですけれども、その前に例えばホテルが今一番どこにあるよいうたらやっぱり東京に一番あるわけですよね。でも東京のホテ

ルと梼原のホテルが同じ稼働率のわけなかって。土地代が違うので。ほんでビジネスホテルと、いうたら[施設名]みたいなところの一泊6万ぐらいするホテルも全部を均して今の全国の稼働率という話がでてきゆうがですね。んで、最後はうちくがこういう形でやっていくって決めるしかないがやという風に、あの思ってます。これに関しては。あとほんでもう一つ。先ほどあの来米事務局長が目的基金で貯めてきているから、貯金貯めてきてるからお金があるということはそれは確かに一方でそうなんですけれども、令和2年度の、大川課長間違っちょったら訂正してください。一般会計の繰入金がまあ単年度赤字が10億円というがもまた一方で事実で。これからも、話、噂を聞くと、話を聞くと、5億から7億くらいずつは単年度赤字があるだろうっていう話があるんで、そこは繰入金で貯金崩さんといかんということですので会計が梼原町の会計が今豊かに回っているかということではないので、そこも一緒にご理解をしてもらったらいいのかなという風に思います。大体それで課長おうちゅうろ。以上です。

【空岡委員長】

まあその財政面での説明は前回議会の委員会でもちょっと財政課長が説明をされておられたような気が、私もその時ちょうど行っちょったんですけども単年度赤字が5億ほど出るというような非常に厳しい予算の話をされてましたけども。たしかにあの15億が太郎川ホテルの目的基金としてあるというわけではないろ。そうなわけ。

【B 委員】

あるよね。

【空岡委員長】

そうではないよね。そうなわけ。

【B 委員】

役場が答えないかんけどあるよね。

【空岡委員長】

いやいや、答えられなかったら大丈夫です。いいですけど。それとまあいろんな話がありますけども一点だけ。ちょっとあの私が最初こういうところをちょっと考えてみたらどうかなというような時に事務局長がひとつだけはちょっとこう理解を示してもろうたというか検討の余地はあるかなということの回廊の部分についてのよね、まあちょっと私はまあ過大じゃないかなと。ここをちょっと削るだけでも本当に大きな金額が変わってくるんじゃないかなという気もしますし、そこの幅が変わることによって建物本体が少し山から離れた状況にこうやれるんじゃないかなというそういう風な思いもしたがですけども、そこはまあ決定はしていないと言えども観光協会が運営すべしとしてここは書いちゅうわけですからそこは事務局、どう考える、考えるというかどうでしょうね。

【来米事務局長】

あったほうがえいことは間違いないですけど、やっぱりその金額的なこともあって、そこは削ってもいい、削ってもいいとは言われんけどまあかまんとは思いますね、正直。見た感じでその壮大な感じでテラスがダーッとある感じはあるでしょうけど、なかなかその削るとしたらたしかにそういうところかなと。

【空岡委員長】
まあそこはあくまでも外観的なもんですよね。ホテルとしての機能とは全く違う。太郎川のイメージに合わしたホテルとしての感じの部分じゃないかなと思うんですよね。それとあの階段って、階段のように上がってますけど、棚田のイメージでやっちゅうんでしょうけどあれってバリアフリーにはなっちゅうわけですか。今の現状では。
【来米事務局長】
なってない。
【空岡委員長】
それはなってないと。うん。まあそういうとこを含めて考えられるところはですよ、本当に細かいところから見直せるものは見直してもらってですよね。さらにいくということはどうかなと思うんですけど。どうぞ。
【H 委員】
バリアフリーに関してはあの今までの太郎川ホテルの入札の時に全部中見させていただきましたけど、今回、あのホテルでもバリアフリーが至っていないと感じました。今回のホテルそのあたりを大切にしていただきたいと思っています。あと I さんが先ほどから手を挙げられようとしていたので替わります。
【I 委員】
ちょっと話また元に戻るかもしれんけんど隈研吾さんの話よね。設計のなには私も長いこと林業の色々な公共施設の材の調達は僕がやったんじゃけんどよね。その隈研吾さんのデザインのなには実用的ではない、ただ奇抜なだけながよ。わしらあに言わしゃあ。ほんでこうぱっと見たらよさそうに見えるけんど実用的ではないけ、家とかなんの設計じゃ普通の住居の設計でやらしたらまあバツやと思う。まあホテルとかレストランとかよね。まあ公共の大きな施設よね。ちょっと目につきたいというような施設ならえいけんど。やっぱ設計士らあはやっぱり、その、建てる人の好みじゃと思うけ、梼原町の人が隈さんが好きじゃったらそれでええんじゃろうと思う。梼原の人が隈研吾が好きになれるかどうかが問題よ。好きじゃったらもう隈研吾さんでもええわ。色々な設計士から施主が選ばないかんけんね。
【J 委員】
すみません。
【空岡委員長】
どうぞ、どうぞ。
【J 委員】
まあ皆さん同じような意見を言われてますけど、まあ、あの隈研吾さんどうこう言われてますけどまあ梼原、隈研吾さんでここ何年かは相当、隈研吾さんの影響受けてこの梼原町発展してきていると思います。まあ、あの現在でも、私、あの雲の上のラーメン屋かな、今できとる。あそこおいしいからよく行くんですけど、まあ観光客の方にバスが泊まったら梼原の何見に来られましたかと聞きますと、ほとんどもう10人が10人隈研吾の建物を見に来た、ほんで[20字削除。個人発言

に対する表現の相違]言っておったことを覚えてますけど、まずここ5年や10年は私は大丈夫。まああの、これここまで来てホテルのあまりに触ることはまずできないと思いますね。ほんでそれを触るんやったらここ何年もまたあれするいうこともあります。それで金にふさわしいものにできるとこをしていく、そして進行していく。あと私一番思うたのは経営と思いますね。めちゃくちゃ難しいと思います。やっぱり梼原町、んで今ここで話もありましたけど35パーセントとか60パーセントとかパーセント、パーセント言いますけど、今はネットの時代です。お客さんをよぶ気持ちがあればこの梼原でも十分よべると思います。それからまた、ホテルの内装とかも大事と思いますね。あの、前、I さんもちょっと話されましたけど、まあ食事はあんまりおいしくなかった言われてましたけど、まあ食事言うのはどこのホテルで泊まってもここはおいしかったいうことは今まであんましなかった。それはあのコンパニオンにお金使こうたいう関係があるんですけど、まずそういうとこがなかったと思います。ほんで満足して帰って、部屋も私は大事と思います。というのはチェックインしてから朝9時10時頃までまあのチェックアウトまでおるいうたらまあ10何時間ここから出ていくところもあまりないんで、まあバス関係やったらまあ朝から出ていくかな。部屋におる時間結構長いと思います。やっぱり退屈ささないような部屋をつくる、つくってやるということも大事。それからあとはやっぱり運営がもう何十パーセントを、私、占めてると思います。サービス業の難しさいうたらもうすごい。ほんでこの前もこの前も言いましたけど、小池さんがあの支配人をもうはよう連れてきたらええじゃないかと。私は早すぎると思います。ここも3年くらい先のことで今から支配人とかいう話が出るのはおかしいと思います。やっぱり今、このコロナでいらん人材が立派な方がなんぼでも世の中にいます。そんな人をやっぱり発掘しもって、それから半年くらいかけてあの発掘して、それからまたその半年くらいでまた梼原町の雇用される人間とかをばっちり教育していただいて、梼原町から立派なホテルマンと言いましょうかサービス業の根幹を強よおにしていただいて観光のあれにしていただきたいと思います。

【空岡委員長】

はい。どうもありがとうございました。どうぞ。

【G 委員】

あの、すみません。すごい空気の読めない発言をするかもしれないんですけど、あの、今この話合いをしても、町は、あの、まあそっくりそのまま図面を変えるとかそういうのをする気があるのかないのかよくわかないんですけど、建前上、委員会を開いて結局計画どおりにしていきましょうみたいなそういう建前が欲しいのかなっていうのはちょっと感じたのと。だから、なのでここでどういう話し合いをしてるんやろうってちょっとよくわからなくなった部分があって。あの、それはおっしゃってたように、あの、この人がやるみたいな決定権を持ってる人がいらっしゃらないので、なんか堂々巡りしているなっていうので、話し合いをしている趣旨がわからなくなったっていうのがあるんですけど。なので、なんかこの人がやるっていうそういう人がやっぱり必要だなという風に思うのと、まあそのやるって決まった人がもうこうするんだというのを言ってくれないとそれに対して意見も言えないなという風に思うので、ちょっとなんかここでの話し合いが意味があるのかちょっとよくわからなくなった部分があります。すみません。

【空岡委員長】
　はい。
【G 委員】
　はい。
【空岡委員長】
　たしかに今、皆さんがどういう形になるのかなというご不安とか不満とかあられると思います。しかしながらまあ、町長からの諮問は諮問のとおりであって、それに対して委員会としてのまあ皆さんの考え方をできたら一つにまとめたら、いきたいと思いますけれども、それをもって再度それを町執行部が検討するということになるんだろうと思います。それで事業を実施するんであれば予算化をしてまあ議会に提出するという手順がまた再度繰り返されるというようなことになってくると思います。まあそれで、私としてはですね、これはまあ私の個人の考え方としてはやはりとにかく検討委員会の委員としてここへ来てますから、たとえ成果は小さくてもやっぱり町民がやっぱり自分たちの結果を見てくれているんで、できたら合意点はないにしてもそれなりに検討はしちゅうなという、そういうことは実績はやっぱりこう、これだけみなさんに時間を割いていただいて、意見も言っていただいておるわけですから、そういう答えは出して町長にお返しをしたいなという風にそれはここについては私はあります。今日も予定の2時間が過ぎました。この議論はですね、正直尽きることはないと思いますけども、次回もですねこれを引き続きこの内容で検討してですね、もう少しまとまりのあるような話できればしたいという風に思いますし、次の日程をこれまだ決まっていませんけども、その時にはですね、またそれぞれみなさんに考え持っていただきまして発言をしていただきたいという風に思いますので、次に次回の開催ということでこれは事務局の方に返したいと思いますのでよろしくお願いします。

・日程調整

【空岡委員長】
　今日は大変ご苦労様でございました。なかなか議論もまとまらないところもありますけども、まあ皆さんの協力を得ながらですね、次回も精一杯このような形で話合いを進めたいと思いますので、ひとつ皆さんのですね、それぞれでご検討いただいて考えていただければ幸いかなと思いますのでよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。